

令和5年度1・2学期 分科会実践及び成果と課題

高学年分科会

第5学年 1組 道徳科 正直・誠実「手品師」

2組 体育「アルティメット」

特別の教科 道徳

- 登場人物の心情を合わせて10として、どちらにどれぐらい共感したか自分の意見をもたせるように教師は声かけ・支援を行う。
- トリオやペアでの対話や意見交流を取り入れ、自分の考えを伝え合い、互いに認め励ます声かけやコメントをし合う。

特別活動

- これまでの体育におけるボール運動の学習を振り返り、チームワークが十分に発揮できないなど、うまくいかなかった経験を元に「良いチームとはどのようなチームか」を各自考え、良いチームをつくるための具体的な行動についての話し合いを行う。
- 相手を否定せずに「他者との違いを認める」ことや「相手を思いやる行動」につなげるため、他者の意見を認め、折り合いをつけられるように助言する。

体育科

- 運動の基礎感覚を養うための補助運動の工夫として、「スキルアップタイム」を設定し、基礎感覚を養う。こうした、個人のスキルを上げることで、個人の技能も高まり児童の目指す「良いチーム」につながり、自己肯定感の礎となると考えた。
- 「チームタイム」、「シェアタイム」や「グッドポイント」では、互いに励ましたり、意見を尊重したりしながら話し合いを進める。チームがどのように変化したかを共有する。

【成果】 ○声かけの方法など、道徳科や特別活動で土台をつくり、体育に生かすことができた。「ナイス。」「ドンマイ。」「次頑張ろう。」など、ポジティブな声かけが自然に出るようになってきた。

○グッドマップを使って、友達の良かったところを出し合うことによって、「自分は友達から認められている。」と、自己肯定感や自己有用感をもつことができた児童が複数いた。

【課題】 ▲トラブルが起こった際に、どのように対応していくのが課題として挙がる。トラブルが起こった際の周囲の声かけの仕方や、当人同士の声かけの仕方を日常の生活で指導していく必要がある。

第6学年 1組 特活「よりよいチーム作りに向けての計画を立てよう」

2組 体育「バスケットボール」

特別の教科 道徳

- それぞれの立場に立って考える題材を通して、相手の立場や気持ちを考え、以下のような態度を養うことによって、相手を思いやる行動につながると考えた。
 - ・相手を尊重する態度
 - ・過ちを許そうとする態度
 - ・「他者との違いを認める」態度

特別活動

- 学級会での取組
学級会カードを用いて、学級全体で学級会の流れを共有して話し合い活動を行う。
また、事前に自分の意見や考えをまとめるための学級会カードを書く時間を設けておく。
- 意見共有の時間の設定
自分の考えを相手に伝える時間を設けて、他者の意見や考えを知り、他者を認め、折り合いをつけられるようにさせる。

体育科

- 運動の基礎感覚を養うための補助運動の工夫として、「スキルアップタイム」を設定し、基礎感覚を養う。こうした、個人のスキルを上げることで、個人の技能も高まり児童の目指す「良いチーム」につなげ、自己肯定感の礎とする。
- 「チームタイム」、「シェアタイム」といった、課題解決へ向かうための時間を設定し、互いに励ましたり、意見を尊重したりしながら話し合いを進める。また、「グッドマップ」を活用し、授業内での振り返りから、毎時間良い行動やクラス全体に広げたいところを抽出し、マップに書き溜めて紹介する。

【成果】 ○スキルアップタイムでの「ドリブルじゃんけん」等の運動は、ゲーム的要素があったことで、苦手な児童も楽しんで取り組むことができ、個人の技能の高まりにつながった。

○毎時間の授業内で見られた、「友達の良かったところ」をグッドマップに示し、学級で紹介したことで、児童同士で、互いに励ましたり、良い言葉がけが増えたりと、ゲームへの意欲やチーム力向上につながった。

○学級会ノートに、あらかじめ自分の考えを書いておくことで、事前に児童の考えを教師が知ることができた。そうすることで、話し合いの中、司会グループの児童が当該児童に発言を促しやすくなり、当該児童が発言した際に、その発言を教師が価値付けし、発言した児童が「頑張れた」「認められた」と感じる事ができた。

【課題】 ▲グッドマップの三つの観点をどのように分けるかの検討が必要である。

▲発言する児童の偏りが見られたので、他者と関われる時間として意見共有タイムを設ける。自分の意見や考えを他者と伝え合うことで、互いの良さを知ったり見付けたりして、自己有用感を高めていきたい。